



第34回 全国読書作文



コンクール対象図書一覧

今年も読書作文コンクールの季節がやってまいりました。

毎年たくさんの作品をご応募いただきありがとうございます。

今年の対象図書が決定いたしました。

どの図書も素敵な作品なのでぜひ読んでいただきたいです。



【小学生の部】



図書名 : ぼくのなかみは なにで できてるのか

かさいまり 作 / おとないちあき 絵 定価 1,595 円 (税込) 金の星社



小学4年のはるとは、みんなにかわかわれている。しっかり者の女子にあきられ、「ぼくの中身は弱虫と泣き虫でできているんだ」と自分を分解して自信をなくす。しかし、母親に抱きしめられ、同じようにかわかわれているやすくんへの友だち宣言から、少しずつ「なりたい自分」へと変わっていく。少年が自分を変える一步をふみ出す物語。自分を応援する！自分を見つめるってどんなこと？誰かと比較してしまう自分。まわりの目が気になる自分。言いたいことも言えない自分。情けない自分を見つける。でも、ほんとは、なりたい自分に向かって、ゆっくりでもいい、少しでもいいから、前に進もうって思うとき、そんな自分を応援したい。そんな思いのお話です。





図書名 : 体育がある

村中李衣 作 / 長野ヒデ子 絵 定価 1,540 円 (税込) 文研出版



4年生のあこは体育がきらい。勉強はできるけど、走るのも泳ぐのもみんな苦手だ。でもママは、鬼コーチと化してとび箱や鉄棒や練習を強要する。特に水泳が苦手なあこは、学校行事で海の遠泳をやることに。ママは、いやがるあこを遠泳の練習のために海に連れていく。そんなとき、ありのままのあこを受け入れてくれる、ばあばが家にやってきた。あこに無理やりマット運動の練習をさせるママをみて、ばあばはやんわりとママに注意をした。そのとき、後ろまわりに失敗したあこは、ガラスにぶつかり足にけがをしてしまう。ついにばあばの怒りがママとパパに向けられた。ばあばの言葉に、ママは大泣き。そして、あこに対する態度が変わった。ママの様子が変わり、あこの気持ちもかわっていった。運動会の徒競走に向けて、自分から走る練習をはじめたあこ。そして運動会の日がやってきた。



図書名 : 金色の約束

松本聡美 作 / 黒須高嶺 絵 定価 1,540 円 (税込) 国土社



小さいころは、何でも言い合えた光輝と智彦だが、ある時、智彦が、ふともらした不用意な言葉に傷つき、仲たがいでしてしまう。以来、どちらも互いの気持ちを伝える機会のないまま過ぎ、もやもやした思いを抱えていた。そんな二人を幼いころから見守り、「5年生になったら行けるぞ」と約束していたじいちゃんが、手書きの砂金の地図と、砂金掘りグッズ一式を、二人に託して亡くなる。地図を手に、砂金探しに行く道中も、意見の行きちがうことも多い光輝と智彦だが、やがて、知恵を出し合い、互いの得意とする力を発揮し、難所を乗り越えるなかで、それぞれの魅力と良さを再認識し、友だちとして認め合っていく。そして、二人の手には、きらきら光る砂金の粒が……。少年期のみずみずしい心の揺れと、見守る大人たちとの信頼に満ちた、冒険と友情、発見の物語。





【小学生・中学生共通】



図書名 : ひと箱本屋とひみつの友だち

赤羽じゅんこ 作 / はらぐちあつこ 絵 定価 1,650 円 (税込) さ・え・ら書房



ひと箱本屋——自分の好きな本を、自分の箱にならべて売っている、いろいろな人の小さな本屋さん。ある日、ひと箱本屋カフェ「SHIORI」をおとずれた朱莉は、一冊の手作りの本に心をうばわれる。作者は同年代の小学生・理々亜。朱莉は勇気を出して、「友だちになってください」と理々亜に手紙を書き、会う約束をした。待ち合わせの日、「SHIORI」にあらわれた理々亜は、車いすユーザーだった。好きな本の話で、すぐにうちとけた二人は大の仲よしに。ところが、あるできごとをきっかけに関係がぎくしゃくしてしまう。理々亜と仲なおりたい、ずっと友だちでいたいと、思いなやむ朱莉。「ほんとうの友だちなら」と、理々亜の気持ちを考えて、朱莉はある行動に出る——。友情、それとも同情？

「やさしい仲間はずれ」とは？ 本当の友だちとは？ 立場のちがう相手への思いやりと、通じあえるよろこびを、さわやかにえがいた感動作です。



図書名 : 人間になりたかった犬

今西乃子 作 / 福田岩緒 絵 定価 1,650 円 (税込) 新日本出版社



「犬童神社」の宮司・犬養尊は「元犬」という落語が大好きだった。神社では代々神様の使いとされる白い犬が飼われていた。尊が人間に生まれ変わったのは50年前。「人間を救った犬」でなければ、人間には生まれ変わらない。「シロ、いつまで、犬のままにいるつもりなんだ？」尊は、のんびりと昼寝をしている犬に声をかけた——。「こうなったら最後の手段」尊は神棚に向かって祝詞をとえ、拍手を打った。すると次の瞬間、シロは人間の少年に姿を変えた。こうして「人間になりたかった犬」シロの人間修行が始まる——。転校生となった犬養史郎(シロ)は、5年3組の担任、加藤由美子先生の後に続いて教室へと向かった。これからこのクラスで困っている人間を探し、救いの手を差し伸べるのだ。

シロは人間界で人気者になるが、「人助け」となると、とんちんかんちん。「人助け」の意味がいまいちわからない。シロは本当の人助けの意味を悟ることができるのか——。





図書名 : ファミリーマップ

おおぎやなぎ ちか 作 / 川野 絵 定価 1,650 円 (税込) 文研出版



幼いころにお母さんを亡くした中学生の陸は、それ以来お父さんと二人暮らし。そんなお父さんが突然再婚することになり、動揺する陸。陸は近所に住み、小さいころから面倒を見てくれた、お父さんの友達のよっちゃん（男性・芸術家）に、悩みと心揺れる本心を打ち明ける。新しいお母さんとの生活と妹の誕生、幼なじみの夢芽の悩みといじめ、「アワフクコ コメフクコ」の謎解き、そしてよっちゃんの傷害事件と別れ。陸のまわりは、陸の思いとは関係なく、次から次にめまぐるしく変わっていく。よっちゃんの考えに触れ、新しい家族ができることで、陸は家族や友達の思いを考えるとともに、陸自身の気持ちが変わっていった。思春期を迎えた中学生が、家族のあり方や友達の存在を見つめなおす物語。



図書名 : 生まれかわるヒロシマの折り鶴

佐藤 真澄 著 定価 1,760 円 (税込) 汐文社



広島平和記念公園内にある「原爆の子の像」には、毎年、たくさんの千羽鶴が捧げられています。像のモデル・佐々木禎子さんは2歳のときに自宅で被爆、12歳の若さで白血病により亡くなります。闘病中、禎子さんが鶴を折り続けたエピソードは、海外の書籍などでも広く紹介され、また、広島G7サミットでも、折り目やシワまで3Dスキャンで再現した禎子さんのレプリカ折り鶴が世界の首脳に贈呈されるなど、禎子さんと折り鶴を巡る物語は今なお語り続けられています。そんな中「原爆の子の像」には、毎年、1千万羽にもものぼる千羽鶴が捧げられますが、折り鶴がその後どのように扱われているかは、あまり知られていません。じつは、折り紙の多くは再生紙の形で人々に届けられ、その一部は平和活動に活用されています。本書は折り鶴を巡る広島の人々の「その後のドラマ」を紹介するものです。人々の想いは、どのような形で引き継がれているのでしょうか。





【中学生の部】

図書名 : あしたの幸福

いとうみく 作 / 松倉香子 絵 定価 1,540 円 (税込) 理論社



「お困りでしたら、わたしと住みますか？」

それは、雨音の幼い頃に家を出た、会った記憶がない産みの母のことばだった。…絶妙なバランスで人間関係を保っていると思っていた雨音。父が突然亡くなり、いっしょに事故にあった父の婚約者との微妙な関係が生まれるなか、親戚の家にも世話になりたくない雨音は、ふりきった選択をする。それは、他人としか思えない、生涯会うはずのなかった産みの母に保護者になってもらうこと。周りの「お母さんと暮らす」というイメージからほど遠いその生活を、「利用」「生きる術」とわりきり、自分の居場所を守ろうとする雨音。あとどれだけ近づけば、あとどれだけ離れれば、幸せにさわれるのか。家族とも友達とも恋人とも違う、どんな名前もつかない間柄との日々の中で、本来交わらないはずだった関係は、彼女らだけの糸で鮮やかに紡がれていく。心と心の「間合い」が、みずみずしく描かれた作品。

第 10 回河合隼雄物語賞受賞作。

図書名 : 夜空にひらく

いとうみく 作 / 杉山巧 絵 定価 1,760 円 (税込) アリス館



アルバイト先で暴力事件をおこし、家庭裁判所へ送られたのち、試験観察処分となった鳴海円人。幼い頃に母が家を出て行って、祖母と二人暮らしだった円人だが、祖母と折り合いが悪く、できるだけ早く自立したいとアルバイトに明け暮れていた。そのなかで起きてしまった暴力事件だった。円人は、「補導委託」という制度で、煙火店を営む深見静一の家で暮らすことになる。補導委託とは、家庭裁判所が最終的な処分を決める前に、民間のボランティアの家で暮らし、そこで仕事をしたり、学校へ通ったりしながら、更生ができるか様子を見るという制度。深見と深見の母まち子、住み込みで働く双子の花火師、健と康と同じ屋根の下で過ごし、言葉を交わし、食卓を囲む日々。すこしずつ、円人は自分自身と向き合い、自分の居場所を見つけていく。血のつながりだけが家族ではないこと、何かに夢中になることの喜びを感じられる、あたたかく心をゆさぶる再生の物語。

図書名 : 青春ノ帝国

石川宏千花 著 定価 1,760 円 (税込) あすなろ書房



無中学校の教師をしている関口佐紀に、ある日1本の電話がかかってきた。電話の相手は、奈良比佐弥。叔父の久和寿が亡くなったと言う。

23年ぶりに聞くその声が、佐紀をあの日へと引き戻した。

自己嫌悪で窒息しそうになっていた14歳の夏の日——。

坂の上の古ぼけた一軒家に「科学と実験の塾」はあった。

その塾には佐紀の弟が通っており、佐紀はお迎え係りだった。

そこには佐紀のクラスメートの奈良比佐弥が、叔父で塾長である久和寿を手伝っていた。奈良は、クラスでも一目おかれる存在で、佐紀はひそかに憧れていた。

クラスのみんなから人気のある彼とそこで会えることが佐紀の喜びだった。塾長の久和先生、助手の百瀬、同級生の奈良、そして佐紀。青春という名の帝国で戦った同志たちとの、夏の日物語。思春期の少女が、悩みや葛藤を越えて成長していく様子を、繊細な心理描写で描いた青春小説です。

だ。塾長の久和先生、助手の百瀬、同級生の奈良、そして佐紀。青春という名の帝国で戦った同志たちとの、夏の日物語。思春期の少女が、悩みや葛藤を越えて成長していく様子を、繊細な心理描写で描いた青春小説です。

第34回読書作文コンクールの応募締め切りは

令和6年8月27日(火) です！

たくさんの方からのご応募お待ちしております！

